資料

H 保育所設立活動からみる保育の専門性

－Y 氏のふりかえりから－

美馬　正和・古郡　曜子

（2018年1月9日受稿）

Ⅰ．はじめに

札幌市の待機児童数は（平成29年10月1日現在）946人【前年度同月：624人】：このほか，特定の保育所等のみを希望し入所していない児童数等：1,494人，幼稚園等における一時預かり・企業主導型保育事業を利用している児童数：308人と発表している[1]．札幌市では，今後も認可保育所や小規模保育事業所等の整備などによる受け入れ枠の整備・拡大のほか，保育人材の確保等に取り組み，保育を望む保護者が安心して必要なサービスを受けられる保育環境の整備を進めていくと述べている．このような現状の中で，保育施設の充足や保育士確保，保育の質を保障することなど解決すべき課題が多くある．

この状況は，戦後の第1次ベビーブームの子どもたちが幼稚園に殺到した状況[2]と似通ったものと思われる．もちろん，社会状況は全く異なっている．しかし，この時代に無認可保育所を設立した経緯と保育への思いを知ることで，保育の専門性の再考ができると考える．

そこで，本研究では戦後の経済成長期の女性の社会進出が少しずつ増える中，当時の一保育所開設の活動を知ることにより，待機児童解消に抜け落ちてはならない保育の専門性を探るものである．

Ⅱ．方法

面接調査法を行った．Y氏（女性）はH保育所の設立者3名のうち中心的存在であったため，Y氏を調査対象とした．「保育所設立をふりかえって」のテーマで自由に語ってもらった．実施時期は2017年7月下旬で，時間はおよそ3時間であった．分析はエピソード法を用いた．

なお，H保育所の設立当時の変遷は次のようである．

1968．9　札幌駅から北方面にあったH・S・Y宅にて共同保育所を開設，産休明け～満2才児の保育にあたる．入園希望が殺到し，引越を重ねる．

1970．4　この頃から園児数急増．分室を2カ所に設ける．

1971．9　認可園をめざして，保育所づくり運動を開始し，後援会準備会が結成．

1972．8　現在の土地150坪を市から借りることに決定．

1973．9　厚生省の認可をうける．社会福祉法人設立．

1973．10　後援会の財政活動を中心に道外5,000人以上の援助を得て，保育園が完成．働く女性が出産しても安心して仕事を続けられる園をめざしてスタート．

Ⅲ．結果と考察

1．活動の背景となる時代の様相

Y氏は，保育所設立以前の1966年頃，働く女性，働き続けたい女性たちの状況について次のように

北海道文教大学人間科学部こども発達学科

話した.

> 北大の大学，大学院をでる女性は，仕事がなかったんですよ．今でもね，男性教授が多いでしょ．当時は皆無だったんですよ．(19) 70年に一人か二人いるような時代ですよ．ということは，女性の地位向上，で女性が働く，それも働き続けて男と同じように，社会で女性が生きていくというそういう時代

> 大学で研究している女性たちは，地位向上という願い．そして，銀行に勤めている，国鉄に勤めている，普通の事務所に勤めている，郵便局に勤めている，電電公社に勤めている，いろんなところの女性と一緒になって．･･･子どもが生まれて産休明けで43日目に職場にでなければ，(自分の) 机取られていたんだって．そういう経験をいっぱいいっぱい，話を聞かせてくれる．･･･そういう関係で保育者と親たちが一緒になってこの地域がたまり場になっている時期.

この当時，北大付近に保育労働組合があり，このような親と保育者のたまり場になっていたようである．そしてこの状況の中で，保育者と親が一緒になって仕事を続けていくための環境づくりを模索していたようである．Y氏はこのような背景の中，働くことへの意欲をもち続けている女性たちへの願いを受け止めていくことを考えていったようである.

2. 乳児保育の不足

1960年代後半，女性に働きたい希望があっても，その希望が叶いにくい当時の保育状況をY氏は次のように話した.

> 厚生省はそのころ乳児保育というか，一歳以上，札幌市で4箇所，その1966年70年始めの頃，0歳児を入れる，6か月を過ぎないと入れられない．で，全国的に，厚生省がそうだから．0歳児，6か月からの0歳児も4箇所くらいしかなかった，札幌市になかった時代.

> 無認可 (保育所) を始めて, 子どもが15人, 20人, 50人に最後, 5年間で3人から50人になっちゃった．それも0（歳）1（歳）だけ．そういう時代．･･･厚生省が認めてないんだから．産休明け43日目からというのを認めてないんだから．認めても6か月から．それも，数カ所しか入れてなかったという時代.

1966年あたりの保育・幼児教育は，幼稚園が中心であり，国としても乳児保育の必要性をそこまで重要視していなかったことがわかる.「厚生省が～認めていない，そういう時代」の語りから当時産休明けで女性が働くということが念頭に無かった時代だったのだろう．そしてY氏とその知人たちによる産休明けの保育所設立活動が始まる.

3. 産休明けの保育所づくり，そして認可保育園へ

社会的になかなか必要性を認めてもらえない状況であった産休明けの保育について，働く女性たちから直接声を聴いていたY氏．Y氏は実際に保育所を立ち上げ運営を始めた当時を語っている.

> ダンボールをお茶屋さんから買ってきて，うちの庭なんだけど，で，3人の子ども，うちの末っ子を助手にして．･･･（保育者は）高校卒業してすぐに入れる夜学の保育学校（の学生）･･･高校卒業してすぐ入った18歳の子は，アルバイト昼間しないとダメで，そしたら私たちはそういう学生をゲットしないと，卒業して出てくる子は（お給料）高いでしょ．経営できない．･･･1968年の9月くらいに，北大に勤めている親の子が3人来て，それが出発.

何もないところから始まった産休明け保育所づくり．お金のない状態で始めるため，保育士としての人手を確保するため苦心したようである．実際に運営をしてみると産休明けからの保育需要が多く，保育所への入所児童数の増加について，次のように語った．

家で（子どもが）9（名）になって．･･･やっぱり広まるのね．産休あけで駅の近くで，やっているっていうので，もう，噂っていうのはね，止められない．それでどんどん（子どもが来る）．･･･調理員さん二人雇って，で離乳食作って．（職員体制を整えていくと）すぐに50名ですよ．だから（最初に始めた）自宅から引っ越して，4回も引っ越してる間に50名になっちゃったの．それでもどんどん電話くる．でもう，子どもは50名以上もう入れられないって言ったら，トイレの前でも廊下でもいいから入れてくれって，毎日かかってくる．電話，私電話番だったから．そういう時代，それくらい産休明けの保育所，0・1歳児の保育が足りなかった時代．今のようにある時代ではない．

この語りからは，乳児保育の需要の多さが際立つ．この時代においても，それだけ職場復帰を望む母親が多く存在している様子が伺える．現代では待機児童の問題が取り上げられるが，この当時と状況は違い，そもそも預ける機関が少なかった当時と預ける場所はあるが預けられない現在の状況の違いがある．

無認可保育園として立ち上がった保育園だったが，認可保育園への移行に向けて市との交渉などを語っている．

税務署の署長さんの住宅が建つ予定だったのよね．ところが私が毎日市役所に行って，保育部にいって，うるさいことを，土地がない，土地を貸してほしい，･･･あそこ（税務署）の十何階に署長がいるからそこに交渉に一緒に行こうっていって．･･･そして，借りれるようになったのが，あの150坪なんですよ．だから私たちにとってはね，宝物なんですよ．

「鉄西地区に保育所をという運動をYさん，やることにしましたから」，これ親たちなんですよ．私から言ったわけではない．･･･で，親たちがお金を集めて．だから，5円からね，･･･1番最高で20万円止まり．その20万円出した人は理事に．で，お金のない人も理事が親戚とか友だちからもらって，親からもらって，20万円持っている人で15人，理事なんか15名集めたのHだけなんだよ．普通8名くらいで，7名くらいで成立するんですよね，理事会は．なんでかっていったら，お金が欲しいから．20万かける15だからね．建築費足りないからね．だから生協の方，農学部の事務方やっている，医学部に勤めている，･･･こういう人たちにね，理事になって下さい，で，お医者さんもいる．で，教育学部の二人（の先生）に理事になってもらう．･･･1年かかりましたよ．この理事．厚生省にオッケーもらうまで．それみんなやったの，一人で．何も知らずに．･･･で，寄付金はね，普通だったら，500万500万500万くらいでいいわけでしょ．5円からだから，みんな書けないよね．だから，誰かに固めて，印鑑押してもらって，そこに，あれがいるんですよ．通帳の残高証明っていうのが必要なんです．残高証明のないものばっかり寄付している．で，固めてね，話し合って，残高証明ある人は？っていったらね，はい，はい，はいってね，その人に50万寄付・・・　，悪いことしてないんだよ．みんなが集めて．代表になって．それで，引っ越しして，保育園っていうのが建ったのが1973年なんですよ．

市役所に掛け合い，手に入れた土地．この土地はY氏にとっても保護者にとっても大変貴重な場

所であることが語りから読み取れる．無認可で始めた保育園だが，5年という時間をかけ認可保育園になっている．

4. 保育内容の検討

無認可保育園として運営を始めた当時保育を行ううえで心がけたことについての語りである．

（無認可の時代から）ただ，預かってミルク飲ませて，オムツ替えて，離乳食あげて，時間を過ごすっていうのじゃなくて，やっぱり保育実践っていうのをね，始めからやっていた．･･･同じ0（歳）からの教育，子どもはいきなり6歳になって教育じゃないんだよね．その前がある．で，その前からって言ったらお母さんからあるんだよね．だけど，オギャーと生まれた子から，育っていくんだから，そこに保育者がどうかかわって，子どもにいったらいいのだろうって，始めから0（歳），1（歳）．0（歳），1（歳）しかいなかったから．0（歳），1（歳）の保育実践を，本とか読んでの0（歳），1（歳）ではなくて，実際に子ども，この子たちと関わる中から保育，どうこの子たちと，一緒に育っていったらいいのかと．だから，保育者も0歳ですよ．で，私自身も0歳ですよ．みんな0歳．だからゼロからの出発っていうのが，私の合言葉だった．

この語りからもわかるように子どもから学び，共に育つという実践をしていたことがわかる．また，認可保育園になっていく中で，園児たちにどのような保育を展開していくのか，どのような理念で実践していくのかを検討していた当時の語りである．

H（保育園）はどんな子どもを育てたいのかっていう，保育士，子ども作り，保育者が育てたいと思う子ども像を，あの，そこにいた保育者と一緒に夜中，遅いときで11時まで．･･･そういう保育指針とか教育指針とかそういうなの関係なく保育者たちは一番子どもにどのように育っていってほしいのかって，話し合って話し合って，模造紙に何枚も書いて作った．

この当時話し合われたことが，H保育園が掲げる子ども像として，現在も残っている．1．身体の丈夫な子，2．仲間を思い，仲間も自分も大切にする子，3．自分で考え，正しいと思うことを言えて，いきいきと行動できる子，4．働くことに喜びを感じる子，5．自然を愛する子．当時の子ども達とかかわりながら，話し合われた子ども像であることがわかる．もちろんそれぞれに保育者たちの願いが含まれている．それぞれの項目についても語っている．

仲間を思うだけじゃダメなんだと，仲間も自分も大事にする子．で，親に，親の考え通りにならないで，先生の思い通りにならないで，自分で考えて正しいと思うことはそれぞれ違うんだよ．･･･正しいと思うことがね，変わるんだよ人間って．その時思ってもね，今は思わない．だから，自分で考え正しいと思うことを言えて，言えないとだめなんだよ．自分の口で言えないとダメ．嫌だって．そうだって．ノー，イエスを自分の頭で考えて，口で言わないとダメなんだって．･･･働くことっていうのは手を動かして自分で0（歳），1（歳）は保育者にやってもらうけれど，2歳児になったらお団子こねられるよね．こねたら白玉団子をやけどしないように，（鍋に）ぽとんと入れるところ，これ作って食べるっていうかね，自分で作るの，こねてぽとん．それをね，「働くこと」っていうふうに，親が働いているんだから，子どもも働いて．これは手を使わないとダメ．

手の労働，手の活動を中心にした遊びを，保育者たちの実践を，私もいろんなものを，お

もちゃを作って，作ったのを，これも私作ったおもちゃなんだけどね．で，この子ども達はね，はしごも子ども達作ったの．運動会でくぐる．だから，こういう子どもが自分の3歳になったらホットケーキ，4歳になったら，今度トンカチを持って，はしご．だから，保育の面ではこういう風になっていったんですよね．

この当時，手の活動を中心とした遊びを実践していたようで，白玉団子づくりやホットケーキ作り，はしごを作って運動会で使用するなどの活動を行っていた．このような活動を通して，働くことを経験させていったのである．現在では食育などがあり，クッキングが保育園などで行われることもあるが，1970年代からこのような実践が行われていたのである．

5. 保育所保育指針との兼ね合い

Y氏が働く女性たちと交流を持ち，産休明けの保育所を立ち上げていくのだが，保育所保育指針について，次のように話している．

国がどんなに保育指針を変えていこうと言ったって自分たちの保育を作る，保育は自分たちで作るものだ．だけどこの根底にあるのは，やっぱり昔から言ってくださっている人たちの源流があって，人間はこういう風に育っていくんだよっていう源流に沿わないことはしていないと．沿わないことをしていたら，指摘してもらいたい．今の若者たち．源流とね，私たちが流れてきたね，こういう時代と共にでしょ．私はね，時代と共に保育を作っていくっちゅう，さっきのだよね．保育者も親と一緒に子どもと一緒に，時代が変わるんだから時代とともに変わるんだよって．・・・子どもの姿，現状，で，どういう保育を，この現状に対してどうしたいか，保育者の思い．で，結果，どのように一ヶ月やってきたけれど，1週間やってきたけれど，自分の保育，ねらいがどうなったんだろう，変わらなかった，だけど願いは願いとして残しておこう，次の月も同じで，次の年も同じで，ゆっくり目の子と，早めの子が同じクラスにいるよね．それは体感ですよ．保育指針で，教えられていない．体感．何が必要で，だから記録もいらない，何もいらないじゃない．やりっぱなしではない．必ず反省．反省, 保育の反省会は必ず，反省会が月に1回.

H保育園の保育を作るという感覚が強くあることが語りから読み取れる．H保育園は保育者が作った保育園ではなく，保護者と保育者が一緒に作った保育園という流れがある．だから，H保育園の保育，自分たちの保育にこだわって実践を行ってきたことがわかる．

6. 家族と共に育ちあい，今を生きる

Y氏は家庭と保育について，「時代と共に変わる」ということに気をつけているようである．それは子どもが家庭で見せる姿と保育園で見せる姿の違いを目の当たりにした経験があるからだろう．時代が変わるとは，そこに生きる人たちの生活が，思考が，価値観が変わるということなのだろう．その変化に保育者が鈍感であったり，対応できなければ保護者や子どもとの間に齟齬が生まれるということなのではないだろうか．次の語りからその様子が読み取れる．

家だけでは，今の家は，昔の家は，昔の家も今の家も，・・・子どもが触っていけないものをみんな隠しちゃって，ちゃぶ台だけ置いてた子どもが，保育園に来たら，クレヨンでペンキ塗りたてで真っ白い壁を，そこにぐわっと三階まで落書きしちゃった．慌てて，家庭訪問したら，子どもが触ってダメなものはなにもなかった．だから，昔の親が良くて今の親がね，って言うことじゃなくて，家中散ら

かっても，散らばっても，ぐちゃぐちゃにされても，お皿一個割っても，割ったことで育ち合いはあると思うんだけれど．だけど，保育園来たらグワーっとやっちゃったわけ．家庭訪問に行って保育者は学んで帰ってくる．だから放ったらかしか，ガミガミか，一から十まで親の思うとおりにさせるのか．どの時代でもパーセンテージは違うけれど，あるんですね．そこに自分が保育者であれば，時代と共にその親とどう向かったらいいのだろうかっていうの，常に時代と共に自分を変えていかないと，自分の頭とか心変えていかないとダメなんだろうかと．

Ⅳ．考察

現在我が国では，急速な少子高齢社会により，多くの問題が山積している．その中の一つに待機児童の問題がある．待機児童の問題が取り沙汰され，それに対応するように政府は待機児童解消の策を打ち出す．保育所に子どもを預けたいと思っても，預ける場所がない状態である．このような状態は，過去にも経験していることで，それが「ポストの数ほど保育所を」をスローガンに巻き起こった戦後保育所づくり運動である．社会的に専業主婦が多く存在していた時代に，保育所に子どもを預けて働くことが非難をされた時代である．

現在では非難されることこそ少なくなっているが，夫婦共働きが当たり前のようになってきている中で預ける場所がない．当時は働きたい女性や，志のある人などが保育所を作るために様々な所へ交渉に行き，保育園の設立を実現してきた．現在では，国が保育所の設立に対して前向きであり，毎年のように新設園が出てきている．

今回のY氏の語りからもわかるように，当時は自分たちの手で保育所設立を叶えて，その保育所でどのような子どもを育てていきたいのかを，保護者・保育者が一緒になって子どもの将来を考え保育目標を立ててきた．

現在では保育の質が問われるようになってきている．それは，量を増やすことへの危惧でもあるのかもしれない．保育所を取り巻く社会情勢は変化しているものの，保育所が足りないということは共通している．当時と現在では相違点も多いだろうが，共通点もあるだろう．当時の保護者・保育者の思いから現在に生かせるものを見つけ，今後の保育・幼児教育に生かせるものがないか考えていきたい．

Y氏も語ったように，どんなに時代が変わっても，変わらない部分と変わらなければならない部分があるのだろう．倉橋惣三は「保育の新と真」という言葉を使っている．Y氏が語っていることはまさにこのことなのだろう．

文　献

1）平成29年度第3回定例市長記者会見資料（平成29年5月18日）
kosodate.city.sapporo.jp/mokuteki/azukeru/hoiku/.../838.html -

2）松島のり子：「保育」の戦後史幼稚園・保育所の普及とその地域差，東京，六花出版．pp．117 - 122，2015.

3）橋本宏子：戦後保育所づくり運動史．東京，ひとなる書房，2006.

4）大豆生田啓友編著：倉橋惣三を旅する21世紀型保育の探求．東京，フレーベル館，2017.